

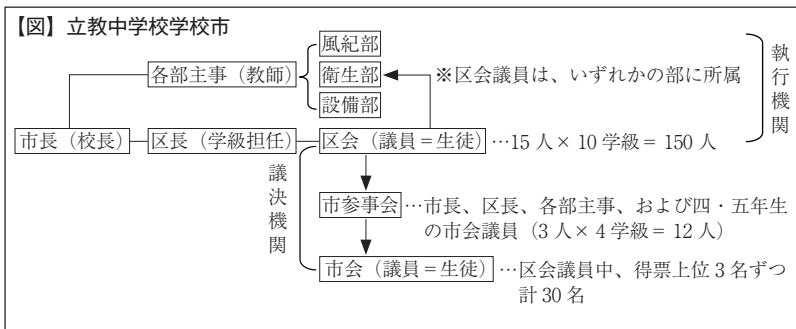
立教中学校学校市制に関する一考察

田中智子

はじめに

立教中学校においては、一九二六年から戦時期中の中断を経て一九五七年まで、学校市と称される生徒・教職員一体の「学校自治体」が存在した。その概要を述べると、①立教中学校を一つの市、そして校長を市長、生徒は市民とみなし、②教師と生徒によつて構成された区会・市会・参事会および各部（風紀部・衛生部・設備部）を学校市に関する事項の決議および執行機関とし、③「生徒心得の中にある日常の起居動作に関する規程は之を生徒の自治に移し自治制に依つて自治教育公民教育の訓練を行はうと」⁽¹⁾というものである。

学校市制の制定および制度の概要については、伊藤俊太郎氏が『いしずえ』⁽²⁾の連載「立教中学校二十世紀」にまとめられたもの⁽³⁾が最も詳しい。また、戦中期の学校市の時局認識活動および銃後援活動については、安達宏昭氏の論考「戦時動員体制の形成と立教中学校」⁽⁴⁾に詳述されている。しかしながら、学校市の活動の実態など、詳細については未だ不明な点も多い。それは、学校市制に関する一次史料が、「大正十五年度 学校市諸記録」（以下、「学校市諸記録」と略す）⁽⁵⁾以外はほとんど現存していないためである。前掲の二氏の論考も、学校市制に関する記述の多くはこの「学校市諸記録」に依拠している。しかし、ここから判明していることは決議事項などわずかであり、具体的な議論や活動内容等は見えて



こない。それらを明らかにするためには、新聞・雑誌の記事や、当時の教師・生徒の回想などの史料を用いていくより他はないのが現状である。そこで本稿では、学校市制の創設者、学校市制制定の背景、学校内外からの評価など、先行研究でまだ明らかにされていない立教中学校学校市制の様々な側面について、当時の新聞・雑誌等の史料を用いながらアプローチを試みる。

(1) 学校市制の創設者

学校市制が制定された契機となったのは、関東大震災後に立教中学校が池袋に移転し、新校舎が建設されたことである。その際、旧校舎時代とは異なる規則作りが急務となったため、数次にわたって教職員による生徒心得改訂委員会が開催された。

中学校校舎の礎石に納められていたタイムカプセル⁽⁶⁾の中に、学校市制の原案とともに、その制定理由などを記した生徒心得改訂委員会による文書が残されている。以下、その文章の全文を引用しておく。

記

立教中学校校舎新築落成ト共ニ生徒心得ニ改訂ヲ要スルモノアリ大正十三年四月生徒心得改訂委員会設ケラレ爾来会議ヲ開クコト数次委員会ハ教育ノ本旨並ニ時代ノ趨勢ヨリシテ生徒ニ自治訓練ヲ施シ公民教育ヲ授クルノ緊要ナルヲ認メ立教中学校学校市制ヲ制定シ以テ其ノ目的ヲ達成センコトヲ期シ茲ニ別紙ノ成案ヲ起草議決スルニ至リタリ

大正十四年十一月 日

生徒心得改訂委員長 諸星 寅一

全
委員
滋賀
貞

全 委員 橘 仁三郎

全 委員 中山 正文

全
委員
帆足秀三郎⁽⁷⁾

以上を見ると、学校市制の制定に携わり、原案の起草を行ったのは、諸星・滋賀・橘・中山・帆足の五名の教師たちであったことがわかる。しかしながら、学校市制については当時の校長・小島茂雄の発案で制定されたという証言もある。当時立教中学校で教師をしていた小木鐵彦⁽⁸⁾、および小島の甥で後に校長となる高橋昊の証言⁽⁹⁾である。また、『立教大学新聞』第三〇号にも、「立教中学校は小島校長の発案により学校市制を敷き」という記述がある。このことから、学校市制の制定を発案したのは小島校長であり、その詳細を定めていったのは、前掲の五名の教師たちであったと推測される。

（２）学校市制制定の背景

次に、学校市制制定の背景について見ていきたい。前掲の引用文によれば、「教育ノ本旨並ニ時代ノ趨勢ヨリシテ生徒ニ自治訓練ヲ施シ公民教育ヲ授クルノ緊要ナルヲ認め」とある。この「教育ノ本旨並ニ時代ノ趨勢」とは一体何なのであろうか。これについて『いしすゑ』第

一二号所載の「学校市制の提唱」には以下のように書かれている。

然るに明治初年に於て西欧文明の移植に日もこれ足らなかつた時代に在つて只管早く文明の知識を注入して早く文明の知識を注入して早く實際に役立たせようとした時世に於て教育は即ち知識の注入であり、一切が教師の指図でありましたが、今や漸く其の余弊を認めて一般に生徒の自発を奨励し獨創を促してゆく時代となつたのであります。かゝる時世に際して彼等の日常起居動作を猶一々細く指図してゆくといふことは甚だ適當でない、寧ろ彼等自らが其の学び得た常識を以て正しい学校生活を営んでゆくやうに躰けるべきであると信ずるのであります。

以上のように、学校市制が導入された背景として、明治期の注入主義から、大正期の子ども中心主義へと、教育界の潮流が変化したことが挙げられている。大正期においては、画一的・強制的な教育方法を排し子ども個性や自発性を重視する、大正新教育運動が様々な学校において実践されており、学校市制の実践もそういった運動の影響を受けていたと考えられる。

続けて、「学校市制の提唱」においては、以下のように

に述べられている。

更に又我國の現状を見ますと今や普通選挙も実施せられて成年男子は悉く国家政治に参与する権利を与へられ、又国家の政治を共に担つていく義務を負はせられたのであります。(中略)さうしてこの運用を正当ならしめ過失ならしめることは国民教育者の負うべき責任でありまして、殊にもはや数年ならずしてこの荣誉ある権利を得ようとする年齢に在る所の中学生に対しては教育上最も甚深の注意を払はなければならぬのであります。この意味からしても彼等の自治自制といふことを学校に居る中に十分訓練しておくといふことは甚だ緊要なことであると信ずるのであります。

これを見ると、一九二五年の衆議院議員選挙法改正によつて成立した普通選挙の影響が見受けられる。この「学校市制の提唱」を執筆した人物は不明であるが、普通選挙の成立により、生徒たちに学校の中で自治訓練を行う必要性を、当時の立教中学校の教師たちが感じていたことがここに示されている。一九二〇年代においては、普通選挙実施にあたって文部省および教育関係者の間で公民教育の必要性が大いに論じられており、いくつかの

中等教育機関においては、課外活動で公民教育を目的とした生徒の自治訓練を行おうとする動きが見られるようになった²⁰。この時期に学校市制が制定されたのも、こうした社会情勢および教育界における動向が反映されていると推測される。

(3) 学校市制の原型

以上見てきたように、学校市制は大正新教育運動や普通選挙の成立を背景として制定されたと考えられる。では、その条文や組織体系などはどのようにして作られたのであろうか。何かモデルとなったものはないのだろうか。その手がかりとなるのが、「学校市制の提唱」にある次の一文である。

近頃ジョン・デウィー氏は實際的訓練といふことが教育の重大なる仕事であるといふことを力説してゐますし、又ウィルソン・エルギル氏は近來高等教育を受けたものが次第に政治に遠ざかるやうな傾向のあるのは彼等が学校生徒であつた時分公民としての訓練を十分受けなかつた為であつて、これは国家将来のために甚だ憂慮すべきことであるといふ意味のことをいつて居ります。

ここに出て来る二名の人物のうち、「ジョン・デイウィー」は言うまでもなく、アメリカの哲学者・教育学者であるジョン・デューイのことである。そしてもう一人の「ウィルソン・エルギル（ウィルソン・L・ギル）」とはアメリカの教師であり、「即ち謂ふ所実験法 Laboratory Method により、（中略）一国の小国民を公民として訓練するの手段を研究し、且つこれを実行して奏効したるの跡を叙したるもの」¹²として、『新公民（New Citizenship）』を著している人物である。同著は一九二〇年、桐生悠々の翻訳により『普通選挙の準備』という書名で日本において出版されているが、この著作の中に「学校市」という名称の生徒自治組織が登場する。これについて、同著においては以下のように説明されている。

公民たる事を含む正しき生活をする事の実験法は、千八百九十七年を以て発明された。而して一の体系ある計画が紐育市に於ける一千一百名の移民児童に対して、行はれ、且つ成功した。

此計画の組立は市の形に於けるデモクラチックな一共和国であった。此小共和国は『学校市』と呼ばれ、^(p.4)より発達した体系が学校立憲国又は学校共和国と呼ばれた。（中略）

一学校が一又は数多の教室から成立つて居るかを問はずして、一室が組織の一単位と考へられ、立法、行政、司法なる一切の政治権を有する。生徒は法律を制定し、これを実行し、困難を排し、役人を選挙する。教師は公民でも、役員でもない。例へば数学の問題を解決するが如く、其日常の社会的、公民的問題を解決すべく、独立的であることに助力するのみである。これは面白きチームの遊戲に關する一切の愉快と喜びを有して居るにも拘らず、現実の政治であつて、遊戲の政治ではない。此政治は村や、町や、群や、市の形を取り得る。種々の教室政治は一州に結付けられ、種々の州は連邦政治に結付けられ得る。¹³

以上を見ると、①教室を一つの行政単位（市町村）とし、②生徒はその市の立法・行政・司法を司り、役員を選挙する、③教師は何ら役職にはつかず、生徒が独立して市の政治を行えるよう助力するのみである、という特徴が見られる。これを立教中学校における学校市と比較すると、立教中学校は学校全体を一つの市としている、教師が役員として市制に参加しているという違いがあるものの、その他の部分では類似している。このことから、学校市制を制定するにあたって、このアメリカにお

ける「学校市」の試みを参考にしている可能性は十分考えられる。

以上のように、ウィルソンは現実の政治を学校に取り入れ、実践的な公民教育を行おうとしたが、そのような傾向は立教中学校学校市制においても見られる。学校市制の条文を見てみると、実際の「市制」^(前)の条文と酷似していることがわかる。以下、両者の条文の対比を掲げて

おく。

これを見ると、条文の文言、選挙の方法、参事会等の名称など、両者は酷似している部分が多い。このことから、当時の立教中学校の教師たちは「実際の訓練」を重視し、実際の「市制」の簡易版として学校市制の制度を考えてのではないかと推測される。

【表】「学校市制」と「市制」の条文の対比

学校市制		市制	
第三条 (前略) 生徒ハ学校市ノ選挙ニ参与シ学校市ノ名誉職ニ選舉セラル、權利ヲ有シ学校市ノ名誉職ヲ担任スル義務ヲ負フ (後略)	第十条 市公民ハ市ノ選挙ニ参与シ市ノ名誉職ニ選舉セラルル權利ヲ有シ市ノ名誉職ヲ担任スル義務ヲ負フ (後略)		
第四条 学校市民ハ学校市ノ营造物器具ヲ共用スル權利ヲ有シ及ビ之ヲ保管シ学校市ノ事務ヲ分任スル義務ヲ負フ	第八条 (前略) 市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財産及营造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負担ヲ分任スル義務ヲ負フ		
第十三条 (前略) 得票ノ数同ジキトキハ年長者ヲ取り年齡同ジキトキハ選挙長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム (後略)	第三十条 (前略) 前項ノ規定ニ依リ当選者ヲ定ムルニ当リ得票ノ数同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同ジキトキハ選挙長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ		
第二十一条 学校市会ハ学校市ニ関スル事件ヲ議決シ学校区会ノ提出ニ係ル議案及ビ諸部ノ細則ヲ審議ス	第四十一条 市会ハ市ニ関スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ権限ニ属スル事件ヲ議決ス		
第二十二条 学校市会ハ其権限ニ属スル事項ノ一部ヲ学校市参事会ニ委任スルコトヲ得	第四十三条 市会ハ其ノ権限ニ属スル事項ノ一部ヲ市参事会ニ委任スルコトヲ得		
第二十三条 (前略) 議長故障アルトキハ副議長之二代ル	第四十九条 議長故障アルトキハ副議長之二代ハリ (後略)		

第二十五条	学校市会ハ学校市会議員定数ノ半数以上出席スルニ非レバ会議ヲ開クコトヲ得ス	第五十二条	市会ハ議員定数ノ半数以上出席スルニ非サレハ会議ヲ開クコトヲ得ス(後略)
第二十六条	学校市会ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同数ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル	第五十三条	市会ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同数ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
第二十七条	学校市ニ学校市参事会ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ組織ス(後略)	第六十四条	市ニ市参事会ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス(後略)
第二十八条	名譽職学校市参事会會員ノ任期ハ学校市會議員ノ任期ニ依ル 学校市参事会ノ職務権限左ノ如シ (第一項省略)	第六十五条	(前略) 名譽職参事会會員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ依ル(後略)
第三十一条	二 学校市会ノ委任ヲ受ケタル件ヲ議決スルコト(後略)	第六十七条	一 市参事会ノ職務権限左ノ如シ 市会ノ権限ニ属スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事(後略)
第三十二条	学校市参事会ハ議長及ビ学校市参事会會員定数ノ三分ノ二以上出席スルニ非レバ會議ヲ開クコトヲ得ス(後略)	第七十条	市参事会ハ議長又ハ其代理者及名譽職参事会會員定数ノ半数以上出席スルニ非サレハトキハ會議ヲ開クコトヲ得ス(後略)
第三十三条	学校市長ハ学校市ヲ統轄シ学校市ヲ代表ス	第八十七条	市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス市長ノ担任スル事務ノ概目左ノ如シ
第三十四条	一 学校市長ノ担任スル事務ノ概目左ノ如シ 学校市参事会学校区会ノ議決ニ付スベキ事件ニ付キ其ノ議案ヲ発シ及ビ其ノ議決ヲ執行スルコト 二 学校ノ財産及ビ營造物ヲ管理スルコト (第三項省略)	一	市会及市参事会ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ発シ及其ノ議決ヲ執行スル事 二 財産及營造物ヲ管理スル事(後略)
第三十五条	学校市長ハ学校市役員ヲ指揮監督シ之ガ任免ヲナスコトヲ得	第八十九条	市長ハ市吏員ヲ指揮監督シ之ニ対シ懲戒ヲ行フコトヲ得(後略)
第四十一条	学校市ハ必要ニ応ジ臨時又ハ常設ノ委員ヲ設クルコトヲ得(後略)	第八十三条	市ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得(後略)

(4) 学内外からの反響および評価

最後に、当時の新聞等に掲載された、学校市制に関する学内外からの反響および評価について見ていきたい。まずは学外からの反響である。『東京朝日新聞』一九二六年二月十八日朝刊には、「市長になる校長さん」という見出しで、学校市制の取り組みが紹介されている⁷⁶⁾。これは学校市制実施以前の記事であるので、計画の概要を紹介したのみであるが、「この試みは欧米にも未だ試みられたことがないので各方面から重視されてゐる」と述べられている。また、アメリカ聖公会伝道機関誌『スピリット・オブ・ミッショナズ』一九二六年九月号においては、「The Educational Department of Tokyo」（東京府学務部のことか）が学校市制に非常に興味を持っているということ、および立教の教育理念が東京の学生生活の模範となりつつあると言つても過言ではない、という趣旨のことが述べられている⁷⁶⁾。前述の通り、「学校市」の試みはアメリカにおいて既に行われており、記事内容の真偽について疑わしい部分は多々ある。しかしながら、この時期の日本において、「学校市」という名称を用いた組織および取り組みは、管見の限りでは見られない。そのため、世間の注目を浴びたということは確かであろう。

次に学内からの反響および評価である。『いしすゑ』

第二八号には、「わが校の誇」と題した当時五年生の佃正晃（後の立教大学総長）からの投書が掲載されている。それによると、「わが校の誇、それは、『輝かしき自治生活』の一言に尽きる」と述べられており、さらに「この誇るべき成果の一として、上級、下級間の敬礼励行を挙げ得る。（中略）これ等により生徒間一切の事は、生徒の手によつて気持よく処理され、われ等は愉快に学校生活を送つてゐるのである」と述べている⁷⁷⁾。敬礼励行は一九二九年二月に学校市参事会および市会において決議された事項である（35頁【資料】参照）。このことをはじめとして、生徒間のことを生徒自身が決めて処理をする、ということが佃にとつては「輝かしき自治生活」であつたということが見受けられる。

また、学校市制の制定に携わり、一九三六年からは学校市長（校長）として学校市制に関わつた帆足秀三郎の回想によると、「学校全体のことに関する市会、各組の自治のためにある区会の運営はなかなか困難で、理想には可成り遠かつたが、実行方面では相当の成功をしたと思う。殊に風紀部員の自治活動には目覚ましいものがあつた」と述べている⁷⁸⁾。これによると、風紀部等、執行機関については機能していたが、区会・市会等、決議機関については上手く機能していなかつたようである。

さらに、学内からの反響で刮目すべき事項として、立

教大学からの反響が挙げられる。『立教大学新聞』においては度々学校市制に関する記事を掲載しているが、一九二六年一月五日付の同紙においては、「大学自治を目標に 学生評議会を作れ」という見出しで、以下のよう
な記事が掲載されている。

先に立教中学が新学年より自治精神の涵養を目的として学校市制を布きて学校当局と学生が協議して学校立法の事に当る事を発表して以来、久しく自治を忘れて居た大学に於ても自治要求の声が上るに至った。即ち、大学は本来学年と教授が相一致協力して始めて統一ある一個の機関として活動するものであつて其の為には学生が評議会を組織して大学当局の諒解の下に自治制を確立しなければならない、と云ふのが此の主張の要点である。¹⁰⁰

同記事によると、この学生評議会構想は、「各クラスより三名自至五名の委員を選出し之を以て学生評議会を形成し学生の日常生活に関する規律は此の評議会を以てよく保つと共に大学当局と協力して完全なる自治制を布かんとする企て」である。各クラスから委員を選出する、学生の日常生活に関する規律を保つことを目的としていることなど、学校市制と共通する部分も多い。この学生

評議会構想に学校市制がどれほど影響を与えているかは不明であるが、学校市制が立教大学の学生に与えた影響についても今後調査していく価値はあるだろう。

おわりに

以上、立教中学校学校市制の創設者、設立の背景、および学内外からの評価等、新聞・雑誌等の史料から判明したことについて述べてきた。仮説の提示に止まった部分も多いが、史料の制約のため現段階で叙述出来るのはここまでである。今後さらに史料を集めて、これらの仮説を立証していくことが今後の課題となる。また、今回述べてきたのはいわば学校市制の「周辺領域」であり、その中心部分である市会・参事会等の運営、各部の実際の活動、教職員と生徒委員との関係等についての詳細はほとんど不明である。これらについても今後、可能な限り明らかにしていきたい。

〈謝辞〉

本稿の執筆にあたって、伊藤俊太郎氏には学校市制について調査していくうえで、多くのアドバイスをいただいた。また、舟橋正真氏（日本大学大学院）には、【資料】の作成でご協力いただいた。他、『スピリット・オ

『ブ・ミッシヨンス』の記事の所在を教示してくださった
大江満氏をはじめ、立教学院史資料センター員の方々に

も様々なかたちでご協力いただいた。この場を借りて御
礼を申し上げたい。

【資料】「学校市諸記録 大正十五年」内容一覧

年	月日	会議種別	概要
一九二六年	五月一日	市会	【決議案】 其一、校舎新築落城式ノ举行セラルルニ際シ米国聖公会伝道協会立教学院設立者ジョン・マキム宛下及立教学院総理シ・エス・ライフスナイダー宛下ノ献身的奉仕ニ対シ深厚ナル感謝ノ意ヲ表ス（中略）感謝状及記念品贈呈ニ関シテハ一切之ヲ学校市長ニ一任スルコト／其二、新築落城式ニ際シ学校ノ風紀衛生設備等ニ関シ特ニ当日進ンデ学校当局ト協力スルコトヲ希望ス 各区長ノ報告／各区記録ヲ調製スルコト／明日ノ区会ニ提出スベキ議案 イ、議案提出ノ件、ロ、区記録ノ件
一九二六年	五月一九日	区長会	【決議事項】 鉛筆削用トシテノナイフヲ携帯スルコトヲ得。但シ削屑ハ各自適宜ニ処理スルコト／掃除規定ハ在来ノモノノ踏襲／上靴ノコハゼヲ正シクツクルコト／ 【声明書議決】 吾人ハ試験ニ際シ学校市民トシテノ体面ヲ汚サザランコトヲ期ス 小島市長ヨリ米国聖公会幹事長ウッド博士ヨリ学校市会ニ宛テラレタル手書ニ就テ説明アリ／前々日ノ市参事会ニ於テ議決セラレタル通り各案可決ス
一九二六年	六月二四日	市会	【決議事項】 上靴ノマ、校庭ニ出デザルコトヲ勵行ス（五乙提出）
一九二六年	十一月四日	参事会	【懇談事項】 イ、掃除用トシテ丁字棒ノ使用如何（五甲提出）／ロ、休憩時間ニ当番（班長二名）ヲ置クコト如何（風紀部提出）／ハ、五年風紀部々員ニ徽章ヲ付クルコト如何（同左）
一九二六年	十一月五日	市会	市長所感／風紀部主事報告並所感／衛生部主事報告並所感 報告 イ、掃除規定ハ市制発布前ノモノヲ踏襲セルコト ロ、特別ニ掃除ノ大検閲ヲ施行スルコト／設備主事所感 【決議事項】 昨日ノ市参事会ニ於テ決議セル原案ヲ可決シタリ

一九二六年	十一月一日	臨時市会	【決議案】 杉野會計顧問ノ逝去ニ対シ哀悼ノ意ヲ表スルタメ花輪及線香ヲ贈呈スルコト
一九二七年	二月二六日	参事会	【決議案】 教科書其他ノ所持品ニ姓名ノ記入ヲ勵行スルコト（五甲提出）
一九二七年	二月二七日	市会	昨日の市参事会に決議したる原案を可決す。
一九二七年	六月二六日	参事会	ポールド拭ひは東西地階入口にて払ふこと（四乙、水谷提出）／学校市投書箱を設置すること（同、大坪提出）／学校市第一部主事滋賀先生の御病氣を見舞ふこと（同、森提出）／教室及校内を一層清潔に整頓すること（五甲、大井提出）／学用品にはなるべく国産品を愛用すること（同）／右五項、明日の市会に提出すべき原案として之を議決したり。
一九二七年	六月二七日	市会	昨日の市参事会原案の中、第二項を除き全部可決す。
一九二七年	十一月九日	参事会	【区長報告】 イ・現在ノ上靴ハ破損シ易シ。改良ヲ望ム（五乙区提出） 改良ヲ加へ、更ニ市参事会ニ諒ルコトトセリ／ロ・上靴紛失ノ防止ヲ望ム（二甲、一乙、五乙区提出）／ハ・校歌、応援歌ノ作製ヲ望ム（四乙区提出）
一九二七年	十一月一〇日	市会	【決議案】 昭和二年十一月十九日（土）マデニ上靴ヲ整へ、姓名ヲ明記スルコト（五乙区、村島説明）
一九二八年	二月二五日	市制改定委員会	【議事】 立教中学校学校市制ニ改正ヲ加フルコト（帆足氏説明）／市長・区長四名（諸星・滋賀・橘・帆足四氏）市参事会員四名（五甲石川・五乙齊藤・四乙水谷四氏）ヲ以テ市制改定委員会ヲ設置シ、考究ノ上、次回ニ之ヲ提示スルコト。
一九二八年	二月二六日	市会	前日、市参事会にて決議したる案を上程、可決す。
一九二八年	二月二七日	市会	別紙原案を可決す。
一九二八年	六月二〇日	参事会	昨日の市制改定委員会席上可決せられたる原案に就いて協議の結果之を可決す。
一九二八年	六月二〇日	参事会	昨日の市参事会を通過したる原案を可決す。
一九二八年	六月二〇日	参事会	市長、所感ヲ述ブ／第一部（総務）主事、市民費ノ件ニ就テ報告ス／第三部（衛生）委員五乙大坪君ヨリ提案アリ 経済ヲ取散ラサヌヤウ注意イタシマセウ／第二部（風紀）委員五乙水谷君ヨリ提案アリ 昼食時間以外ニモノヲ食ベヌコト／第四部（設備）委員五乙森君ヨリ提案アリ 近來学校器具ノ破損多キニ鑑ミ市民ハ器具愛護ノ精神ヲ發揮スルコト／右ノ中、第三第四第五ノ三項ハ之ヲ次ノ市会ニ諮ルベキ原案トシテ可決ス。

一九二八年	六月二六日	市会	先般ノ市参事会ニテ決議セラレタル原案ヲ提出シテ可決ス
一九二八年	十一月五日	奉祝臨時市会	御大札記念事業トシテ屋上ニ旗竿ヲ設置シ植樹ヲナスコト。右ニ就テハ学生ハ金貳拾錢、職員ハ金壹円ヲ醸出スルコト。
一九二八年	十二月一七日	参事会	<p>【報告】市長ヨリ。奉祝費會計ニ就テ。／総務部主事ヨリ。東京朝日新聞社主催同情週間ニ金五円寄付シタルコト。／衛生部主事ヨリ。来十二月二十一日(金)特別大掃除ヲナスコト。</p> <p>【議案】明日ノ市会ニ提出スベキモノトシテ以下ノ二甲ヲ可決ス</p> <p>近來外被ノ釦ヲ外シタマ、着テキル者ヲ大分見受ケルガ甚ダ不体裁故之ヲ改メマセウ。―四甲区提出―／奉祝費ノ残額ヲ以テ陶製施瓶ヲ購求スルコト。</p> <p>昨日ノ市参事会通リト順序ニヨリ報告、議員二十五枚ヅ、同情スタンブヲ配布セリ。但シ議案第一項ニ字句ノ修正ヲ加ヘテ可決ス。／近來外被ヲ整然ト着用セザル者ヲ大分見受ケルガ甚ダ不体裁故之ヲ改メマセウ―五乙区提案―</p>
一九二八年	十二月一八日	市会	<p>【報告】花瓶購求に就て、価格金參拾円―小島氏ヨリ―</p> <p>【決議】吾人ハ郊外ニ於テ敬礼ヲ勵行スルコトヲ期ス。四乙区提案。右ハ明日ノ市会ニ提出スベキ原案トシテ可決ス。／明日ノ市会ニ於テ五年級市會議員ノ送別ヲナス。―総務部一任―</p>
一九二九年	二月二三日	参事会	<p>【報告】市長及各部主事ヨリ夫々一年間ニ於ケル報告及所感アリ。</p> <p>【議案】前日ノ市参事会ニテ可決セラレタル「敬礼ノ件」ヲ決議ス。</p> <p>【五年市参事会員送別会】</p>
一九二九年	二月一四日	市会	<p>【決議事項】</p> <p>第一項 夏休ヲ有意義ニ送ラシムルノ件(小島氏提案)／第二項 二部ノ標語(図案ヲモ含ム)募集ノ件(山本氏提案)／右委員付託トナス。</p>
一九二九年	六月二六日	参事会	<p>第一項 吾人は国事ノ多端ニ鑑ミ五十日ノ長日子ヲ充實シタル生活ヲ以テ過サンコトヲ期ス。五甲、彦坂説明。／第二項 風紀部衛生部設備部ノ標語入ボスターヲ募集スルコト。五乙 藤澤説明(募集規定ハ「いしす」第十五号)参照)</p>
一九二九年	六月二七日	市会	

一九二九年	二月一〇日	参事会	明日ノ市会ニ提案スベキ原案トシテ以下一項ヲ決議ス。 教科書・体操帽・外被・ゲートル・靴等ハ各自整頓シ、貸借セザルコトヲ厳守ス。右声明ス。 小島市長提案、五乙木山田説明。 【総務部報告】 九月二十一日、濱中先生退職ニ際シ金五拾円を支出ス／十月三十一日、標語・図案当選者ニ商品ヲ交付ス／十月五日、故ウイリアム氏記念碑建設ニ金貳拾円支出ス／十二月三日、東朝同情スタンプ五百枚購求 昨日ノ市参事会可決ノ提案ヲ可決シ一立ニヨリ一同情スタンプヲ各員ニ頒布セリ。
一九二九年	二月一一日	市会	【決議】 明日ノ市会ニ於イテ五年級市会議員ノ送別ヲナスコト。右、準備ハ之ヲ総務部主事ニ一任スルコト。
一九三〇年	二月一八日	参事会	総務（諸星）風紀（帆足）衛生（山本）設備（前島）各部主事ヨリ昭和四年度報告アリ。／右終ツテ五年級市会議員送別会ヲ開ク。菓子包頒布。
一九三〇年	二月一九日	市会	市長報告、ミセス・フット御退職ニ際シ人形（少女価十五円）ヲ購リシ件ニ就イテ。（別紙礼状参照）／昼食時間外ニ物ヲ食ハヌ事及敬礼励行ノ件以上二項ハ既ニ市会ニ於テ決議シタル所ナレドモ、此ノ際各区長ヨリ猶徹底セシムルコト。／消こむ（ボール式）使用ヲ禁ズルコト。（帆足氏）
一九三〇年	六月二三日	参事会	【決議案（明日ノ市会ニ提案スベキモノ）】 野球其ノ他ノ对抗競技ニ臨ミ学生競技ノ本旨ニ鑑ミテ低劣ナリ言動ヲ為サザルヤウ各自相戒ムルコト。右決議ス。（二乙区長垣内氏説明。久保田君提案）／通学ノ途上飲食店ニ立寄ラザルコトヲ厳守ス。右声明ス。（五乙・高橋君説明及提案）
一九三〇年	六月二四日	市会	昨日ノ市参事会席上ニ於イテ決議シタル二項ヲ可決ス。
一九三〇年	一〇月三一日	臨時市会	本学校市ハ浅越・市川両先生ガ教育勅語換発四十年記念日ニ際シ東京府ヨリ表彰セラレタルニ対シ記念品ヲ贈呈シテ祝意ヲ表スコト。但ソノ方法ハ学校市長及ビ総務部ニ一任スルコト。
一九三〇年	一一月八日	参事会	【総務部報告】 市川・浅越両先生ヘノ贈物ノ件（壹百円）／パチユラア博士ヘノ寄附ノ件（五拾円）／筈崎宮ヘノ寄附ノ件（拾円）／東朝杜同情スタンプ購求ノ件（五円） 【決議案】 吾人ハ近時礼法ノ衰退ヲ慮リ之ヲ矯正スルコトニ努メ其ノ一トシテ特ニ室内ノ脱帽ヲ励行スルコト。右決議ス（五甲、青木説明）

一九三〇年	二月九日	市会	昨日ノ決議案ヲ可決ス。
一九三一年	二月一八日	参事会	市長所感ノ質問事項―市民費ニ就イテ（五甲小澤君ヨリ）
一九三一年	二月一九日	市会	市長・各部主事ノ報告・所感ノ五年議員送別会。四甲、松下送辞―五乙、川上謝辞
一九三一年	六月二二日	参事会	議案なく、市長の希望並所感あり散会。
一九三一年	六月二三日	市会	各部主事より所感並希望を述べて散会。
一九三一年	十一月二四日	臨時市会	【決議案】―市長より市参事会ヲ省略シタル理由ヲ述ベテ提案― 立教中学校学校市ハ報国ノ赤誠ト平和擁護ノ熱愛トヲ以テ滿洲ノ天地ニ献身盡瘁シツ、アル皇軍ニ対シ至深至厚ナル満腔ノ感謝ヲ捧ゲンガ為學校市民ノ饌金ヲ贈呈シテ誠意ノ万一ヲ表セントス。 右可決。生徒金拾銭、職員金五拾銭ヲ今週中ニ徴収シ、寄付ノ方法ハ市長・総務部主事及五年甲組坂本同乙組小池四氏ニ一任スルコト。 【報告】 朝日新聞同情スタンプ金五円申込ノ件。 陸軍省寄贈ノ「帝國ノ国防」及絵葉書ヲ配布スノ不正行為為防止ニ関スル懇談ヲナシテ散会。
一九三一年	十二月一四日	参事会	【総務部報告】 陸軍省へ恤兵金トシテ献納シタル件。合計金六拾四円六拾銭。ノ同情スタンプ購求ノ件。金五円。之ヲ各員二頒ツ。 【市長報告及希望】 飛行機献納ノ件。ノ不正行為防止ノ件。
一九三二年	二月八日	参事会	学校市長ヨリ送別市会ヲ以テ五年委員送別会ヲ兼スル由ヲ提案、可決。
一九三二年	二月一〇日	送別市会	学校市長、各部主事ノ挨拶並報告。ノ送辞四甲佐藤君、謝辞五乙小池君。ノ菓子包ヲ頒ツテ散会。
一九三二年	六月二〇日	参事会	左記、明日ノ市会ニ提出スベキ原案トシテ可決ス。学校市会議員選挙方法改正ノ件。（五乙石井説明）
一九三二年	六月二一日	市会	昨日ノ学校市参事会ニ於ケル原案ヲ可決シ、其ノ文案ハ総務部主事ニ一任ス。
一九三二年	二月七日	参事会	議事無く、各部主事ヨリノ報告ト、市長ヨリ「敬礼問題」ニ関スル注意トアリ、散会。
一九三二年	二月九日	市会	総務部主事ヨリ報告、学校市長ヨリ「敬礼励行」ニ関スル訓辞アリ、一同二朝日新聞同情スタンプヲ配布シテ散会。
一九三三年	二月六日	参事会	明日ノ送別学校市会ヲ以テ五年各部委員送別会ヲ兼ネル由ヲ学校市長ヨリ提案シテ可決ス。 【報告事項】 (1)前任前田氏ニ対スル贈物ノ件ニ就テ―帆足氏ノ(2)四、五年級ノ三月分授業料納付ニ就テ―市長―

一九三三年	二月七日	送別市会	各部主事ノ報告並謝辭／四甲久保田君謝辭、五甲小口君答辭／菓子包（一個十五錢）ヲ頒ツテ散会。
一九三三年	六月二二日	参事会	議事無く、学校市長ヨリ訓辭アリテ散会。
一九三三年	六月二三日	市会	四部主事ノ挨拶二次イデ、児島大尉ヨリ防空ニ関スル講話アリ、右終ツテ散会。
一九三三年	七月八日	臨時市会	【決議案】 立教中学校学校市ハ坂井新五郎先生ノ永眠ヲ悼ミ謹シテ深甚ナル哀惜痛悲ノ意ヲ表ス。右二就生徒一名金式拾錢宛醸出シ、別ニ花輪一個ヲ霊前ニ捧グルコト。
一九三三年	二月六日	参事会	明日ノ市会ニ提出スベキ原案トシテ左ノ事項ヲ決議ス。 【決議案（原案）】 掃除当番本来ノ目的タル勤勞ノ精神ヲ一層發揚センコトヲ期ス。 所帶説明―大掃除ノ際殊ニ撒水ノ甚シキハ當ニ清潔ノ実績ヲ挙ゲザルノミナラズ漏水ノタメ校舎ヲ汚損シ床下ニ配置セラレタル電線ヲ腐蝕セシメ延イテハ漏電ノ危険ヲモ伴フ依テ爾今床ノ雑巾掛ヲ勵行シ大掃除ノ実績ヲ挙ゲントス。（衛生部・五甲・山下君）。 【懇談事項】 大掃除ノミナラズ普通掃除ニ於テモ勤勞精神ヲ發揚セシメタシ。（五乙・久保田君）／丁字棒使用ノ件（五甲・蒔田君）
一九三三年	二月七日	市会	昨日ノ市参事会提出ノ原案ニ就テ山下君ヨリ説明アリ、山本主事ヨリ所感ヲ述べテ、可決ス。次デ市長小島氏ヨリ訓告アリ、最後ニ諸星主事ヨリ朝日新聞同情スタンブヲ配布シテ散会。
一九三四年	二月七日	参事会	例年通り、明日ノ市会ヲ以テ、五年各部委員ノ送別ヲ兼ヌル者、市長ヨリ提案シテ可決ス。
一九三四年	二月八日	送別市会	諸星主事の挨拶に次いで四甲石井君の送辭、五甲山上君の謝辭あり。菓子包を頒つて散会。
一九三四年	六月二八日	参事会	小島市長ヨリ一場ノ訓諭アリ、四乙西部君ノ申出ニ係ル「上靴紛失ノ件」ニ就イテ懇談ヲ重ネテ散会ス。
一九三四年	六月二九日	市会	小島市長ノ挨拶アリ、散会ス。（議案ナシ） 明日ノ市会ニ提出スベキ原案トシテ左記決議ス。 【決議案（原案）】 立教中学校学校市ハ東北地方凶作地ニ対シ救済義捐金トシテ今学期分ノ市民費ヲ全部寄付スルコト。五甲、廣田君提案説明。
一九三四年	二月五日	参事会	次デ小島市長ヨリ敬礼勵行ノ現状ニ就テ感謝ノ辭アリ、総務部主事ヨリ市民費ノ現在 額ヲ報告セリ。

一九三四年	二月六日	市会	昨日ノ原案ヲ可決シ、小島市長ヨリ一場ノ訓話アリ。
一九三五年	一月九日	臨時市会	【決議（市参事会ヲ召集セズ直ニ市会ニ上程、可決）】 立教中学校学校市ハ浅越敏彦先生宅類焼セラレタルニツキ見舞ヲナスコト。
一九三五年	二月四日	参事会	小島市長ヨリ、明日ノ市会ヲ以テ、前例ニ従ヒ（昭和六年度以降ノ慣例）五年級学校市各部役員送別市会ヲ兼ヌル旨ノ提案アリ。可決。
一九三五年	二月五日	送別市会	帆足主事ノ挨拶ニ次イデ永田君（四甲）ノ送辞。渥美君（五乙）ノ答辞アリ。菓子包ヲ頒ツテ散会。
一九三五年	六月二五日	参事会	議案無ク、タゞ在来決議事項ニ改正ヲ加フベキコトアリ、小島市長ヨリ提示セラレテル通り改正ス（左表参照） 【懇談事項】 低年級生徒ニ一層、自治ノ念ヲ抱カシメラレタシ。（五甲、菊池君）／武道々場ニ神殿奉礼ノ件（四乙、笠野君）／御真影奉安ノ件（四乙、瀧原君）
一九三五年	六月二六日	市会	昨日ノ学校市参事会に於ける模様と学校市長より報告して散会す。 小島市長ヨリジョン・マキム祝下辞任セラレントスルニ当リ記念品贈呈ニ就テ提案アリ。次デ前島氏ヨリ同氏略伝ニツキ説明アリ。終ツテ明日ノ市会ニ提出スベキ決議案ヲ可決ス。
一九三五年	一〇月八日	参事会	【決議案】 ジョン・マキム祝下ハ本校開設以来其ノ設立者トシテ又過般財団法人立教学院創設以来其ノ理事長トシテ本校経営ニ力ヲ効サル吾等祝下ノ献身的奉仕ニ対シ感謝ノ念禁ズル能ハズ聞クガ如クンバ祝下今や高齢ニ上ラセラレ不日辞職セラレントス吾等惜別ノ情ニ堪ヘズ茲ニ本校学校市会ノ決議ヲ以テ深く感謝ト惜別トノ意ヲ表ス。 【附帯決議】 市民ハ各職員ハ金五拾銭生徒ハ金拾銭ヲ醸出シ記念品ヲ贈呈スルコト。 小島市長ヨリ昨日ノ市参事会ニ於ケル決議案ニ就テ説明アリ。可決ス。
一九三六年	二月六日	参事会	小島市長より昭和六年度以降の慣例に従ひ明日の市会を以て五年級学校市各部役員送別市会を兼ねる旨提案あり。可決。
一九三六年	二月七日	市会	小島市長司会の下に主事を代表して帆足氏の挨拶あり、次いで在校生を代表して四乙笠野君送辞を述べ、之に五甲菊池君の答辞あり、菓子包を頒つて散会。

一九三六年 六月九日	臨時市会	小島先生辞任ニ就イテ学校市ヨリ記念品贈呈ノ件ヲ帆足市長ヨリ提案シ可決。 【決議案】 小島先生多年立教中学校長トシテ我が学園ノ發展ニ盡瘁セラレ且本学校市ヲ創設セラレ自治訓練ノ重大ナル功績ヲ示サレテ茲ニ訣別スルニ当リ本学校市ハ記念品ヲ贈呈シ以テ深湛ナル謝意ト惜別ノ真情トヲ表ス。 猶、記念品ニ就イテハ之ヲ学校市長、総務部主事ニ一任スルコトニシタリ。
一九三六年 六月二五日	参事会	帆足市長ヨリ二、三 前日ノ各区会議事ニ就イテ説明アリ、懇談ニ移ツテ散会。〔後略〕。
一九三六年 六月二六日	市会	帆足市長ヨリ前日ノ市参事会同様説明アリ、解散。 【決議事項】 明日ノ市会ニ提案スベキ原案トシテ左記可決。 通学ノ途上ニ於テハ特ニ他人ノ妨トナラザルヤウ注意スルコト。（第四甲区提出、提案説明） 【懇談事項】 （イ）市長より一、運動場ニ塵箱、喫壺設置ノ件。二、口笛禁止ノ件。三、机ノ留金ノ件。 四、油雜巾ニ油ノ少ナキ件。 （ロ）市参事会員ヨリ一、上級生ニマント使用ノ件（四乙、塚田）。二、手提鞆ノ禁令ニ反スルモノ多シト認ムル件（同右）。三、立大予科教室落城後ノ訓練ニ関スル件（四乙、鹿又）。 四、最近、制服ノフック下部ヲ外ス者多シト認ムル件（四甲、矢野）。 昨日、市参事会提出ノ原案ヲ可決シ、後、総務・風紀・衛生・設備ノ各主事ヨリ夫々報告アツテ散会。
一九三六年 一二月七日	参事会	
一九三六年 一二月八日	市会	帆足市長ヨリ明日ノ学校市会ヲ以テ五年級学校市各部役員ノ卒業送別市会ヲ兼ヌル旨ヲ提案シ、可決。
一九三七年 二月八日	参事会	帆足市長ノ挨拶ニ次イデ、花房氏各部主事ヲ代表シテ謝辞ヲ述べ、在校代表（四乙）塚田君ノ送辞、五年代表（五甲）飯塚君ノ答辞アリ。菓子包ヲ頒ツテ散会。
一九三七年 二月九日	送別市会	帆足市長ヨリ二、三項、各学区記録記載ノ件ニ就イテ所感アリ。五乙区提出ノ「学校市制自治精神ノ徹底ヲ期スル件」ニ関シテハ未ダ具体的事項ヲ示ス機ニ達セザレバ、議案ノ形式ヲ採ラズシテ、一層自治精神ノ発揚ニ各自努力スベキ旨強調スルコトニ決定。懇談ニ移ツテ五乙塚田君ヨリ「各組週番級長ノ昼食後体操参加ノ件」外、「終日ハイキングの件」等アリ。
一九三七年 六月二三日	参事会	
一九三七年 六月二四日	市会	鹿又君（五乙）より「自治精神ノ発揚徹底」ニ就イテ説明アリ、帆足市長之ヲ補足力説セラレテ解散。

一九三七年	九月二八日	臨時市会	阿部氏応召ニ就イテ左ノ如ク提案。可決。 欲送之辞（明夜、出発ニ際シ、宮坂博朗読）／阿部先生今回応召出征セラル先生ガ盡忠報國ノ丹心ハ君國ニ貢獻スル所多大ナルモノアルベキハ言ヲ俟タズ。茲ニ我ガ立教中学校学校市会ハ聊カ錢別ノ薄儀ヲ呈シ全幅ノ赤誠ヲ捧ゲテ先生ノ壮途ヲ祝福ス。／錢別金五拾円也贈呈（総務部主事、宮坂・鹿又訪問贈呈）。
一九三七年	二月七日	参事会	明日ノ学校市会ニ提案スベキ原案トシテ左記二項ヲ可決ス。／傷病兵見舞ノ件（小林氏・五甲山口・五乙鹿又兩君二一任）（中略）／学校市民費改正ノ件（総務部主事提案説明）。
一九三七年	二月八日	市会	昨日ノ原案二項ヲ可決シ、猶、各部主事ヨリ夫々報告アリ。
一九三八年	二月八日	参事会	【決議案】 明日ノ学校市会ニ提出スベキ原案トシテ左項ヲ決議ス。 吾人ハ紀元節ノ佳辰ニ方リ現下ノ時局ニ退去スル吾人ノ所信ヲ披瀝シテ誓詞ヲ宣シ以テ銃後ノ本務ヲ完ウセンコトヲ期ス一五乙、鹿又提案説明一／猶、右誓詞ニ就イテ諸星氏ヨリ朗読アリ、明日ノ学校市会（紀元節当日モ）ニハ、五乙鹿又君朗読スルコトニ決定。
一九三八年	二月九日	送別市会	前日ノ決議案ヲ可決シ、鹿又君ノ誓詞朗読アリ、後、総務部主事、及在学生代表（四乙）林君ノ挨拶送辭ニ次イデ五年代表（五甲）山口君ノ謝辭アリ、菓子包ヲ頒布シテ解散。 帆足市長ヨリ支那事變第一周年ニ当リ学校市トシテ之ニ対処スベキ事項ノ諮問アリ、委員会ニ附託セラル。
一九三八年	六月二三日	参事会	【委員会原案】（山本・小木・花房・樋口・志賀・塩谷・田中） 立教中学校学校市ハ支那事變第一周年ニ際シ消費節約ヲ旨トシ学用品ノ愛用ニ留意シ以テ長期戦下ニ於ケル生徒タルノ本文ヲ全ウセンコトヲ期ス。右宣言ス（提案説明一五甲、樋口） 【七月七日実施事項】 七月七日正午ヲ期シ全校一分間黙祷スルコト／七月七日ヲ期シ各自金属屑者或ハ毛物類廢品ヲ釀出シ金員（円）ニ換エテ皇軍慰問費ニ充ツルコト（小木・樋口一任）／阿部先生ニ慰問状及慰問品ヲ贈呈スルコト（志賀起草）／（猶、慰問品代ハ金拾円トシ市民費中ヨリ支出）
一九三八年	六月二四日	市会	昨日ノ原案ヲ可決ス。
一九三八年	一〇月六日	臨時市会	【決議案】 立教中学校学校市ハ銃後後援強化週間ニ際シ皇軍將士ニ感謝ノ微意ヲ表スルタメ各自慰問品ヲ釀出シテ之ヲ寄贈スルコト（後略）。
一九三八年	二月七日	市会	決議案ノ上程ナク、学校区会記録ヨリ二三懇談事項ヲ摘出シテ懇談シタル後、散会。 各部主事より夫々報告ありて散会。

一九三九年	二月八日	参事会	明日ノ五年級役員送別市会ヲ可決シテ散会。
一九三九年	二月一〇日	送別市会	総務部主事及在学生代表(四乙) 田中英二君ノ挨拶、送辞ニ次イデ五年代表(五甲) 新井浩君謝辞ヲ述べ、菓子包ヲ頒ツテ散会。
一九三九年	六月二一日	参事会	帆足市長ヨリ左ノ二案ヲ提出シ、明後日ノ学校市会ニ提出スルコトニ決定ス。 一、昭和十四年五月二十二日内外ノ帝国青少年学徒ニ対シ畏クモ 御親閲ヲ賜り且優渥ナル勅語ヲ下シ給フ洵ニ恐懼感激ノ至ニ勝フル無シ。我等謹シデ日夜拝誦服膺シ奉リ愈学徒タルノ本分ヲ恪守シ中正身ヲ持シ全力ヲ ^ニ シテ以テ負荷ノ大任ヲ全ウシ聖旨ニ対ヘ奉ランコトヲ期ス。(中略)ノ、百億貯蓄ハ聖戰遂行ノ必須要件タリ、吾人ハ振ツテ此ノ挙ニ参加シ以テ其ノ完成ニ協力センコトヲ期ス(後略)。
一九三九年	六月二三日	市会	一昨日ノ原案二件ヲ可決ス。
一九三九年	二月六日	参事会	明日ノ学校市会ハ各部主事ヨリ中間報告ヲ為スコトトシ、懇談ニ移リテ散会。
一九三九年	二月七日	市会	昨日ノ決定通り各部主事ヨリ夫々報告アリテ散会。
一九四〇年	二月六日	参事会	来九日、学校市五年送別会ニ就テハ、総務部主事ノ謝辞・四乙遠藤君ノ送辞・五乙川合君ノ答辞ニ依ツテ之ヲ行フコトヲ決議シテ散会。
一九四〇年	二月九日	送別市会	去二月六日ノ決議通りノ順序ニ従ヒ、菓子包ヲ頒ツテ散会。
一九四〇年	六月二七日	参事会	【決議事項(明日ノ学校市会ニ提出スベキ原案)】 一、紀元二千六百年ニ際シ声明文発表。 光輝アル紀元二千六百年ヲ迎ヘ興亜ノ大業ニ際会セル吾人ノ使命愈重且大ナルモノアルヲ痛感ス茲ニワガ立教中学校学校市ハコノ盛代ニ方リ負荷ノ責務ヲ完ウセンコトヲ期ス。右声明ス。(右ハ五甲、青樹君ヨリ提案説明ノコト) 二、支那事変第三周年ニ際シ古雑誌新聞紙ノ回収ヲ図リ之ヲ金円二換ヘテ傷病將士ノ慰問ニ充ツルコト。 右ハ五乙、宮尾淳平君ヨリ提案説明スルコト。猶、ソノ実施方法トシテハ、職員側ヨリ山本・花房・小林三氏、生徒側ヨリ五甲青樹、五乙宮尾、四甲遠藤、四乙久保田君ヨリ成ル委員会ヲ設ケテ考究スルコト。
一九四〇年	六月二八日	市会	昨日ノ市参事会ニ於テ決議セル二項ヲ可決ス。猶、明日ノ朝礼時ニ、学校市長ヨリ右二項ニ就イテ訓話スルコトトセリ。
一九四〇年	十一月一八日	臨時市会	【決議事項】 立教中学校学校市ハ諸星・橋岡先生ガ教育勅語渙発五十年記念ニ際シ教育功労者トシテ文部省ヨリ表彰セラレタルニ対シ記念品ヲ贈呈シテ祝意ヲ表スルコト〔後略〕。

一九四〇年	二月四日	参事会	議案無ク、懇談事項トシテ左記ノ件ヲ帆足市長ヨリ提示、協議ス。／朝礼後、教室ニ入ルマデノ静肅ヲ保ツベク、上級々長ノ指導ニ俟ツコト多シ。／右ニ就テハ明朝朝礼ノ際、市長ヨリ全校生ニ通達スルト共ニ、各区長ヨリ之ヲ敷衍スルコト決定。
一九四〇年	二月五日	市会	帆足市長ヨリ訓示アリ、各部主事ヨリ報告アリテ散会。
一九四一年	二月四日	参事会	明日ノ学校市会ヲ五年級役員送別市会トスルコトトシ、其ノ順序ハ（一）総務部主事謝辞（二）在校生総代送別辞「四乙・久保田武男」（三）五年級代表答辞「五乙・石原慶次」ニヨリ開催スベキコトヲ決ス。
一九四一年	二月五日	送別市会	昨日ノ決議通り開催。菓子包ヲ頒ツテ散会。
一九四一年	二月一九日	臨時市会	【議決事項】立教中学校学校市ハ帆足先生・高橋先生ノ皆勤十年ニ対シ記念品ヲ贈呈シテ祝意ヲ表スルコト。／右、山本氏議長トナリ、花房氏提案説明シテ可決。猶、記念品代トシテ金五拾円宛 来三月五日卒業式当日贈呈スルコト。
一九四一年	六月一九日	参事会	立教中学校報告「国」団ノ結成ニヨリ学校市ヲ解散スベキ旨、帆足市長ヨリ提案アリ、可決。 【議決案】現下ノ重大ナル時局ニ際シ、立教中学校報国団結成ニヨリ茲二十有五年ノ伝統ヲ持シ来レル立教中学校学校市ヲ解散ス。
一九四六年	九月七日	参事会及び市会	司会、花房ノ主事挨拶。生活部（小木氏）衛生部（高橋氏）設備部（深澤氏）ノ議案。在来ノ決議事項ヨリ抽出シタルモノニ就テ再検討スベク小委員会ニ附託決定。
一九四六年	九月二二日	参事会小委員会	原案作製。
一九四六年	九月一七日	参事会	原案略。可決。
一九四六年	九月二〇日	市会	別紙ノ通り可決。
一九四八年	六月一日	参事会	総務部 花房ヨリ。学制改革ニ方リ中学校ハ三年制トナリタルモ、立教中学校ハ学校市制ヲ在續シ、三年級ノ市会議員ヲ以テ市参事会員ヲ兼ヌルコトニツキ報告。 社会生活部（小林氏）設備部（露木氏）衛生部（高橋氏）ヨリ夫々挨拶アリテ散会。

※「学校市諸記録」の記述をもとに作成（作成者・舟橋正真）。紙幅の都合上、一部表現を改めている。仮名遣いは原文ママである。

註

- (1) 「学校市制の提唱」(立教中学校校友会誌『いしすえ』第一二号、一九二八年二月、二六頁)。
- (2) 立教中学校学友会発行の雑誌。戦前期に『いしすえ』の誌名で四一号まで刊行されており、戦後は『いしすえ』の誌名で再び第一号から刊行されている。小論では戦前期発行のものは旧字体で『いしすえ』、戦後発行のものは新字体で『いしすえ』と表記する。
- (3) 伊藤俊太郎「立教中学校二十世紀 六、ちかづく戦争の足音」(『いしすえ』第三五号、一九八六年、二一五〇頁)。
- (4) 『立教学院史研究』第二号、二〇〇四年三月、四一―二六頁。
- (5) 立教池袋中学校・高等学校史料室所蔵。表題に「大正十五年」と記されているが、実際には設立当初の大正十五(一九二六)年から、立教中学校報国団の結成に伴い解散する一九四一年六月までの市会・参事会等の記録が残されている。
- (6) [1925(大正14)年、東京府下の池袋に再建された立教中学校の校舎に六角塔の焼け残った礎石を移し据えた上に、「1925大正十四年」と彫られた新礎石を重ねて池袋校舎の「いしすえ」とした。この新礎石の中にも12点の各種記念品を入れたカプセルが納められた」(BRICKS AND IVY 立教学院百二十五年史 図録 二〇〇〇年、六二頁)。
- (7) 「立教中学校学校市制(原案)」(タイムカプセルT8、立教学院史資料センター所蔵)。
- (8) 「池袋復活後の立教中学校では、小島校長の提案で、日本では他に類例のない「学校市制」(傍点原文ママ)という自治的訓育の制度を布いたのである」(小木鐵彦『愛行』日本聖公会出版事業部、一九六九年、二九九頁)。
- (9) 「小島校長の考えたこの民主的な自治活動の制度は、いち早く先導的役割を果たした」(『立教学院百年史』一九七四年、三二一頁)。
- (10) 「立教大学新聞」第三〇号、一九二六年四月十五日付。
- (11) 例をあげると、東京高等師範学校附属中学校においては、修身科・公民科の教師原房孝が、校友会組織である桐陰会を用いて生徒に自治訓練を行なった(原房孝「公民科教授の回顧」、『中等教育』第四七号、一九二四年二月、二二―二四頁)。また、私立成女高等女学校においては、将来の婦人参政権獲得を視野に入れて、自治共存制という制度を設立し、生徒達に自治訓練を行わせている(宮田修「自治共存制設定の由来と経過」、『中等教育』第四八号、一九二四年七月、六一頁)。
- (12) ウェルソン・エル・ギル著・桐生悠々訳『普通選挙の準備』日本図書出版、一九二〇年、二二三頁。
- (13) 同前 一七二―一七四頁。
- (14) ここで言う「市制」とは、一九二五年一月に学校市制の条文の草案が出来た当時のもの(一九二一年四月一日法律五八「市制中改正」)を指す。
- (15) 『立教学院百年史』第七章において、筆者の高橋呉が「当時大新聞にも大きく取り上げられたほどで」「ただし記事掲載の正確な年月日および新聞名は不明である。」と述べていたのは、おそらくこの記事のことではないかと推察される(『立教学院百年史』三二二頁および三二五頁註1参照)。
- (16) 原文は以下の通りである。"The Educational Department of Tokyo is very much interested in this project and the local papers have been full of it. It is not too much to say that, as never before, educational ideals at St. Paul's are becoming an inspiration and an

example to the student life of Tokyo." (*The Spirit of Missions*,
September, 1926, p. 587)

(17) 佃正実「わが校の誇」(『いしすゑ』第二八号、八〇・八一頁)。

(18) 帆足秀三郎「学校市制とその思い出」(『いしすゑ』第八号) 八三
頁。

(19) 「大学自治を目標に 学生評議会を作れ」(『立教大学新聞』一九二
六年一月五日付)。